

感動 (*Kando*) の心的構造 (2) : 人生で最も感動した出来事の種類と感動反応尺度の国際比較 Mental structure of *kando* (2): Categorization of the most significant *kando* events and cross-cultural comparison of *kando* reaction scale scores

安田 晶子^{1,4}, 正田 悠^{2,4}, 上宮 愛^{3,4}, 祐伯 敦史⁴, 伊坂 忠夫⁴
Shoko Yasuda, Haruka Shoda, Ai Uemiya, Atsushi Yuhaku, Tadao Isaka

¹一橋大学, ²京都市立芸術大学, ³金沢大学, ⁴立命館大学

Hitotsubashi University, Kyoto City University of Arts, Kanazawa University, Ritsumeikan University
s.yasuda@r.hit-u.ac.jp

概要

日本語表現の「感動」は、他の言語・文化圏でも理解されるのか、またその捉え方に違いはあるのか検討するため、日本を含む11カ国で大規模な国際調査を行った。感動反応尺度への回答を求め、どのような出来事に対して最も感動したのか選択させた。結果より、感動反応尺度は11カ国で共通して使用可能であることが確認された。また、ネガティブな事象に対して感動するなど、言語・文化圏による差異も一部で示された。

キーワード：感動 (*kando*) , 国際比較 (cross-cultural comparison) , 感動反応尺度 (*kando* reaction scale)

1. 目的

新生児をはじめ胸に抱く時に心が震えたり、街中でふと耳にした音楽に心奪われたりするような独特な心理的体験を、日本語では「感動」と表現する。英語圏では、“*kama muta*” (サンスクリット語で「愛に動かされる」という意味), *being moved*, *awe* などの心理的概念が感動に類するとされるが、Yasuda et al. (2022) ではこれらの類似概念と感動の関係を整理し、感動がこれらを含む傘概念の位置づけにあることを示した。

2000年代以降、感動に関する心理学的研究は継続的に進められてきたが、これまでの感動研究は、感動と同義の英語表現がないことを理由に、日本国内のみで行われてきた。一方で、感動の類似概念である“*kama muta*”については、19カ国を対象とした国際比較が行われており、そのほとんどの国において“*kama muta*”概念が共有可能であること、また国による差異も一部存在することが示されている (Zickfeld et al., 2019)。

では、日本語表現の感動は、日本とそれ以外の言語・文化圏で共有可能なのだろうか。また、異なる言語・文化圏における感動は、日本語表現の感動とどのような点で異なるのだろうか。本研究では、これらの問いにつ

いて明らかにするべく、大規模な国際調査を実施した。

2. 方法

本研究は、「立命館大学における人を対象とする研究倫理審査委員会」の承認を得て実施した。

2.1 参加者

調査会社に実査を依頼し、日本、中国、インド、フィリピン、オーストラリア、スペイン、ドイツ、フランス、南アフリカ、アメリカ、アルゼンチンの11カ国において、世代 (20代~50代以上) および性別が均等になるように配慮し、オンライン調査を実施した。データクリーニング後、表1に示す4044名を分析対象とした。

表1 各国の分析対象者数

	<i>n</i>	平均年齢	<i>SD</i>		<i>n</i>	平均年齢	<i>SD</i>
アメリカ	351	47.5	14.6	フィリピン	335	43.0	13.4
アルゼンチン	417	42.8	13.2	フランス	256	47.3	13.1
インド	219	42.3	13.6	中国	506	40.9	12.3
オーストラリア	360	45.6	14.6	南アフリカ共和国	397	44.0	14.0
スペイン	356	43.5	13.4	日本	602	45.2	13.9
ドイツ	245	46.1	13.7				

2.2 質問票

はじめに調査内容を説明し同意を得た。調査の冒頭で、「生活の中で心を動かされたり、何かが心に触れた感じがしたり、あるいは強い印象を受けること」を「感動」と定義した上で、これまでに最も感動した出来事について記述させた。またその出来事に関連して感じたことについて、感動反応尺度 (11因子・33項目, Shoda et al., under review) に当てはまる程度を1~7で回答するよう求めた。また、最も感動した出来事が当てはまるカテゴリを、「妊娠・出産」、「音楽」、「災害」などの20カテゴリ (以下、感動カテゴリ) から全て選択させた。これらの調査項目は、日本語版を英語、仏語、独語、スペイン語、中国語に翻訳して使用した。

3. 結果・考察

日本語版から翻訳した各国語の感動反応尺度が、日本語版と同様の因子構造を持つのか確認するため、各言語において国ごとに確認的因子分析（最尤法）を行った。その結果、「畏怖」因子については、英語版とスペイン語版では、因子の信頼性係数（ α 係数）が著しく低く、畏怖因子の翻訳が日本語版の意味と乖離している可能性があるため、「畏怖」因子を除く10因子を、本研究では扱うこととした。10因子は、「ポジティブ感情」、「爽快感」、「困難さ」、「感動」、「涙」、「あたたかさ」、「克服」、「鳥肌」、「超越した力」、「驚き」であった。10因子の感動反応尺度については、国ごとに適合度を求め、複数言語で使用可能なことを確認した。

次に、感動反応尺度の各因子について、国ごとに尺度得点の平均値を算出した（表2）。平均値の上位3カ国を赤いセルで示し（濃赤ほど平均値が高い）、下位3カ国を青いセルで示した。ドイツ、フランス、オーストラリアは、どの因子の得点も総じて低かった。特にドイツでは、「ポジティブ感情」因子の得点が著しく低く、感動時に必ずしもポジティブ感情が生じているわけではないことが示された。また、インド、フィリピン、南アフリカ、アルゼンチン、スペインでは、「ポジティブ感情」と「ネガティブ感情」がともに高く、「克服」の得点も高い傾向があった。これらの国々では、感動時に、ネガティブ感情がポジティブ感情に転じる克服の過程を経ている可能性が考えられる。さらに、中国や日本においては、「ポジティブ感情」が高く、「困難さ」といったネガティブ感情が低いことから、感動時にポジティブ感情を体験していることが示された。

続いて、感動の対象について、国による差異を検討するため、感動カテゴリをクラスター分析した（Hellinger 距離・Ward 法）。結果、20の感動カテゴリは「対人」、「ネガティブ」、「達成」、「スポーツ」、「宗教」、「アート」、「旅行・自然」の7クラスタに分類された（図1）。



図1 最も感動した出来事のクラスター分析結果

感動因子の得点の平均値を、図1の7クラスと国別で比較したところ（表3）、フランスやオーストラリアは、どのカテゴリでも平均値が低かった。日本は、スポーツやアートに対する感動が強い一方、宗教に対する感動は低い傾向が見られた。また、スペイン語圏のスペインやアルゼンチン、中国語圏の中国では、ネガティブな事象に対して強く感動しており、これらの国では「感動」が文字どおり「心が動く」体験として捉えられている可能性が考えられる。

本研究では、感動反応が、複数の言語・文化圏に共通して10因子で整理できることが示されたほか、言語・文化圏によって感動の捉え方に一部差異があることが示された。こうした差異の原因については、今後、文化的背景や国民性の点から、更に検討する必要がある。

文献

Shoda, H. et al. (under review). Uncovering the essence of moving experiences in Japanese culture: Development and validation of a *kando* reaction scale.

Yasuda, S. et al. (2022). A review of psychological research on *kando* as an inclusive concept of moving experiences. *Frontiers in Psychology*, 13 (974220).

Zickfeld, J. H. et al. (2019). Kama Muta: Conceptualizing and measuring the experience often labelled being moved across 19 nations and 15 languages. *Emotion*, 19 (3), 402-424.

表2 国別の「感動反応尺度」得点（平均値）

国	ポジティブ感情	爽快感	困難さ	感動	涙	あたたかさ	克服	鳥肌	超越した力	驚き
ドイツ	3.95	3.30	4.12	5.72	5.48	3.98	3.36	4.27	4.08	4.38
フランス	4.44	4.08	3.09	5.12	4.16	3.90	3.28	3.74	3.40	3.88
アメリカ	5.49	4.83	3.05	5.41	4.29	5.04	3.46	3.68	4.10	4.16
オーストラリア	5.37	4.73	2.87	5.31	4.04	5.02	3.45	3.62	3.96	4.07
インド	5.13	4.89	3.78	5.61	4.48	5.10	4.71	4.33	4.87	5.12
アルゼンチン	5.28	4.92	3.57	5.88	5.18	4.97	4.27	4.25	4.52	4.92
フィリピン	5.46	5.04	3.33	5.67	4.75	5.39	4.48	4.15	4.63	4.89
スペイン	5.35	5.00	3.24	5.82	4.93	5.17	4.06	4.41	4.75	4.89
南アフリカ	5.40	5.05	3.47	5.84	4.71	5.29	4.13	4.33	4.77	4.76
中国	5.45	4.90	2.23	5.77	5.22	5.94	4.41	2.47	4.92	3.82
日本	5.81	4.79	1.90	5.74	4.89	5.58	3.76	3.97	4.59	4.71

表3 国別・クラスタ別の「感動」因子の得点（平均値）

国	対人	ネガティブ	達成	スポーツ	宗教	アート	旅行・自然
ドイツ	5.80	5.66	5.65	5.13	6.16	5.24	5.22
フランス	5.17	5.10	4.66	4.91	4.64	4.95	5.00
アメリカ	5.52	5.30	5.56	5.33	5.68	5.42	5.22
オーストラリア	5.41	5.31	5.08	4.98	5.63	5.19	5.23
インド	5.64	5.62	5.71	5.82	6.04	5.70	5.78
アルゼンチン	6.03	5.88	5.17	5.63	6.15	5.73	5.88
フィリピン	5.69	5.66	5.68	5.66	5.82	5.63	5.64
スペイン	5.96	5.78	5.20	5.56	6.15	5.41	5.55
南アフリカ	5.92	5.74	5.96	5.98	6.01	5.74	5.77
中国	5.80	5.81	5.75	5.57	6.20	5.64	5.48
日本	5.94	5.65	5.19	5.89	5.60	5.80	5.53